

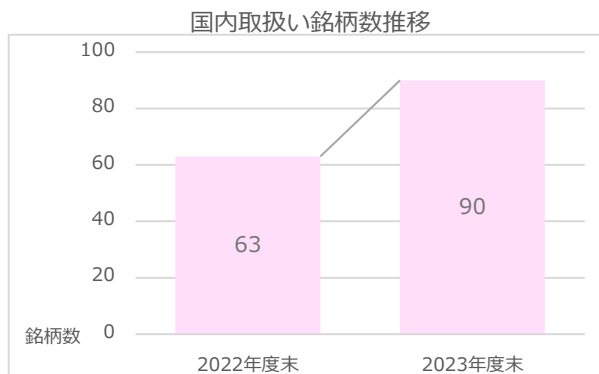
暗号資産取引についての年間報告（2023年度）概要

本資料は、「暗号資産取引についての年間報告（2023年度）」の概要です。詳細は左記資料をご確認ください。

- 集計期間：2023年4月～2024年3月
- 集計対象：暗号資産交換業及び暗号資産関連デリバティブ取引業会員企業 34社

【集計結果サマリー】

2023年度はBTCを中心に暗号資産の価格上昇および国内取扱い銘柄の増加に伴い、現物取引高と口座数が増加となった。国内取扱い銘柄については、取扱い廃止となった銘柄もあるものの、毎年着実に銘柄数を増やしている。

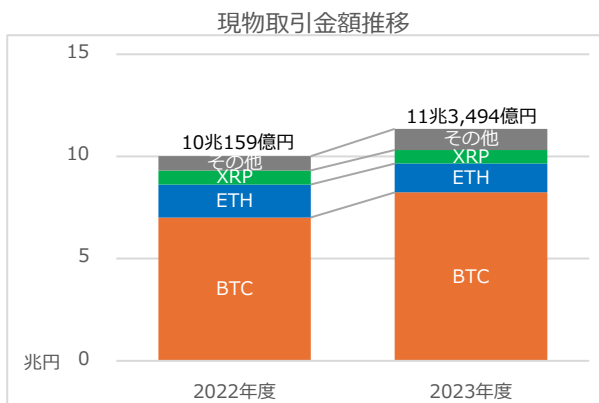


【取引高】

2023年度の年間現物取引高は11兆3,494億円（前年度比13%増）となった。

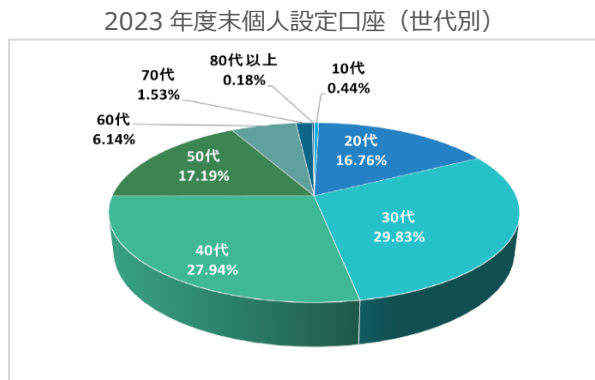
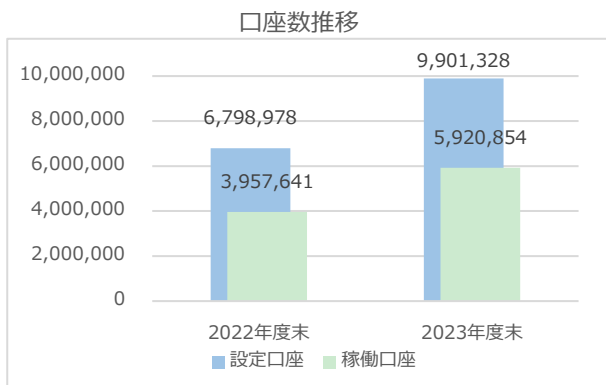
現物取引全体の9割以上をBTC・ETH・XRPが占めており、上記3銘柄の国内人気の高さがうかがえる。

- BTC：8兆2,415億円（72.62%）
- ETH：1兆4,085億円（12.41%）
- XRP：6,682億円（5.89%）



【口座数】

2023年度末の設定口座数は990万口座（前年度比45%増）、稼働口座数は592万口座（前年度比49%増）となった。個人設定口座は、30～40代の利用者が大半を占めている。



※日本暗号資産取引業協会は、資料の作成に当たっては、会員から提出された報告等を基に作成を行っていますが、会員が報告する事項について、その正確性を保証する責任は負っていません。また、公表をしている数値は変更・訂正される可能性があります。

※掲載内容の二次利用の際には出典元を明記してください。

※その他の注意事項については本編をご確認ください。